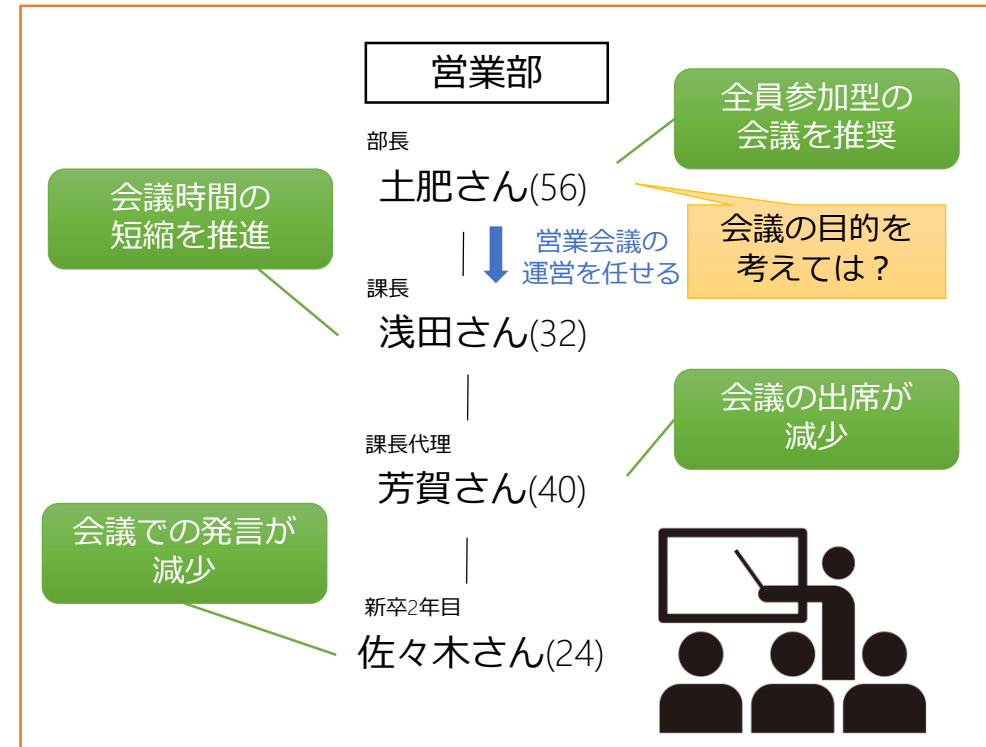




あらすじ 金融業界に特化した会計システムを開発販売する朝日デザインシステムで営業部の若手リーダー格として働く浅田課長は、土肥部長から営業会議の開催と進行について一任されました。業務改善の一環として、全員が抱えている案件を発表していく従来の方法から、重要案件に絞って、その担当者が発表するという新しい方法へと変更した浅田課長。会議の時間が短縮され、**社員の長時間労働の抑制に対する効果を感じています。一方、該当案件以外の担当者の欠席や、出席者の発言が少なくなっていることに疑問を感じる土肥部長は――**

相関図（朝日デザインシステム）



ポイント 一口に会議といっても、会社の規模や業種によって開催の頻度や進行の仕方・内容も異なります。**会議の目的や意義、働き方改革による労働時間の制限や生産性の向上、当事者意識や一体感の醸成などのバランス**を、どのように考え重視したらよいか、様々な角度から考え、意見を出し合ってみましょう。